

令和4年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一昨年に引き続き、苦手分野において既習内容の振り返りを行いながら授業の導入に繋げた結果、基礎・基本の定着を図れた。
- ・話し合いや学び合いの活動を通して、様々な考え・解法を知り、自分の考えと比較することでよりよい方法を導き出そうと努力した。
- ・単元テストやテスト直しの課題を継続したことで技能・考え方の向上が見られ、それによる達成感からさらに意欲・関心が高まっている。
- ・3学年とも、基礎・基本の問題の正答率が区の平均正答率を上回った。

(2) 課題

- ・知識・理解の観点においては区平均を上回っているが、思考・判断・表現の観点では、区平均を下回っている（1、2学年）。
- ・思考・判断・表現の力を伸ばす必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	正答率が過去2年間の1年生よりかなり低い。		
第2学年	正答率は、区平均とほぼ同じ（0.1下回る値）であった。	(第1学年時)	
第3学年	正答率が、区平均を上回っている。	正答率が区平均を上回っている。 (第2学年時)	正答率が区平均と同等である。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が前年度の1年生より低い分野が多い。特に百分率などの割合の分野はかなり低い。	正答率が前年度の1年生より低い分野が多い。しかし、文字と式の分野に限っては前年度より高い。	正答率が前年度の1年生より低い分野が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は全国平均、大田区平均を上回った。	正答率は全国平均、大田区平均を大きく下回っており、課題である。	正答率は全国平均、大田区平均を下回る結果となった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が全国平均を上回っている。特に計算分野と関数分野や大きく上回っている。	正答率が区平均を上回っているが、全国平均を下回っている。連立方程式の応用と証明に課題がある。	正答率が区平均を上回っているが、全国平均を下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数、割合などの概念の理解が不足している生徒が多くいるため、適宜小学校の算数を復習をしながら進めていく必要がある。	文章題が苦手な生徒が多い。文章中の情報を整理し、論理的に処理する力を育むために、授業中に深く思考するための発問をし、自分の考え方を述べる機会を与える。	考え方を図示したり、言葉で説明したりすることに苦手を感じている生徒が多い。アクティブラーニングを多く取り入れていくことで改善を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な計算は定着していると思われるが、四則計算の問題において平均を下回る値を示していたため、少し複雑な計算および発展問題を数多く解かせていく必要がある。	文章題に苦手な生徒が多いため、文章題に取り組む際も、生徒がイメージしやすい文章題にする工夫や簡単な問題を用意し、苦手意識を取り除く工夫が必要である。	記述においても大きく下回るところもなく、正答率も悪くない。今後も主体的に取り組む機会を増やし、経験を積ませていくと伸びると思われる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個別指導の場面を増やし、基礎・基本の定着を図る。できていない生徒には的確なアドバイスをする。	課題解決の問題や思考を必要とする問題に取り組む時間を設け、解法について話し合い、思考力を身につけさせる。	身の回りの問題や課題解決の問題を話し合いなどで関心をもたせながら、取り組ませる。